

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	電気制御量子ドットを使った光子—電子スピン相互量子状態変換の研究
研究代表者	大岩 顕 (大阪大学・産業科学研究所・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>電気制御量子ドットを使って、主に電子スピンから光子への量子状態の転写を目指す研究計画である。夢のあるテーマであると同時に、実現可能性を示す説得力のある提案となっている。平面p-n接合との組み合わせはチャレンジングであるが、その対策も十分検討されている。本研究は、他の研究プロジェクトと同時に遂行する形となるが、それぞれの研究の切り分けと位置づけが明確に示されている。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>